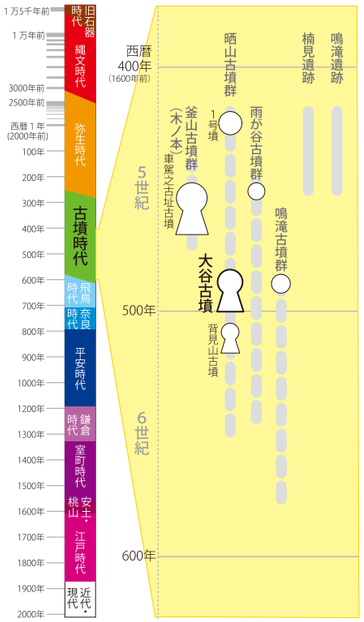
国指定史跡 大谷古墳（おおたにこふん）

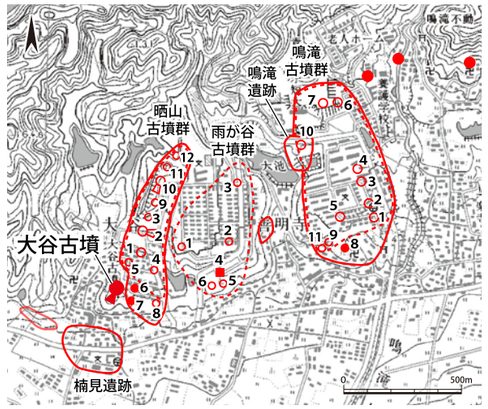


大谷古墳とその時代（年表）

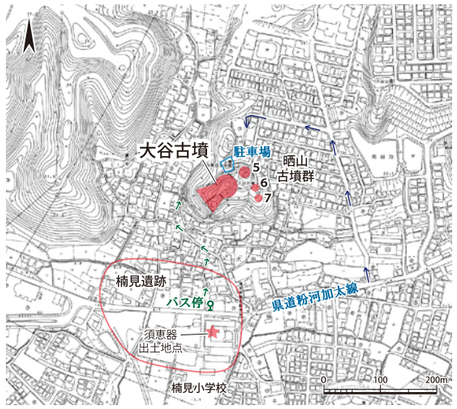
古墳時代の和歌山平野と大谷古墳の位置

鳴滝遺跡の倉庫群を復元した模型

楠見遺跡から出土した須恵器



大谷古墳と周辺の遺跡



大谷古墳の周辺案内

大谷古墳とその時代

今からおよそ1400年～1700年前、各地に有力者の大きな墓がつくられた時代を、「古墳時代」といいます。墓の大きさ・形や、墓に供えられた品物は、当時の社会の構造や、その墓に葬られた人物がどのような地位にあったかをあらわしています。

古墳時代の中ごろの５世紀には、中国大陸・朝鮮半島から海を越えて日本列島に次々と新しい文化が伝えられました。大谷古墳がある紀ノ川の河口近くは、交流の玄関口となり、渡来文化の影響が強い地域でした。

大谷古墳の東の鳴滝（なるたき）遺跡では、遠方へ運ぶ品物を納めるような数多くの大きな倉庫がつくられました。南の楠見（くすみ）遺跡では、朝鮮半島の影響が強い器が大量に見つかっています。また西の車駕之古址（しゃかのこし）古墳は、朝鮮半島の新羅（しらぎ）や加耶（かや）の有力墓で発見されたものと同様の金製の勾玉が、日本で唯一見つかった古墳で、墓の主の力の大きさをあらわしています。大谷古墳の主は、車駕之古址古墳の次の世代で、海を越えて大きな活躍をしたようです。

大谷古墳の沿革

昭和32（1957）年12月～翌年２月
　和歌山市教育委員会が京都大学考古学研究室に依頼して発掘調査
昭和53（1978）年11月５日　史跡指定
昭和57（1982）年６月５日　重要文化財指定（主体部出土遺物一括）
昭和58（1983）年　墳丘規模確認調査
昭和58（1983）～昭和62（1987）年　史跡整備

大谷古墳の案内

□交　通：バス　南海和歌山市駅より川永団地行き（約 15 分）
　　JR 和歌山駅より鳴滝団地行き（約 15 分）
　　→楠見小学校前下車→徒歩５分
□駐車場：古墳北側に車数台分の駐車場あり

大谷古墳出土遺物の展示

□和歌山市立博物館：和歌山市湊本町 3-2　℡ 073-423-0003
　常設展示で一部を公開（随時入れ替え）

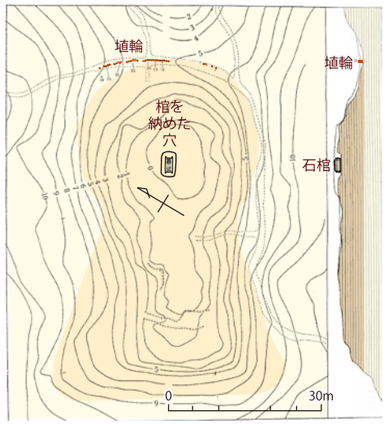
和歌山市教育委員会 文化振興課
〒640-8511　和歌山市七番丁23番地
TEL：073-435-1194　FAX：073-435-1294

平成25年３月発行
(2013年)

墳丘

大谷古墳の墳丘（写真左上が北）

大谷古墳は、紀ノ川の北岸で、和泉山脈の南麓にある前方後円墳で、全長67m、高さ6～10mです。後円部の頂上には、石棺を納めた穴があります。



大谷古墳の墳丘（平面図・断面図）

埴輪

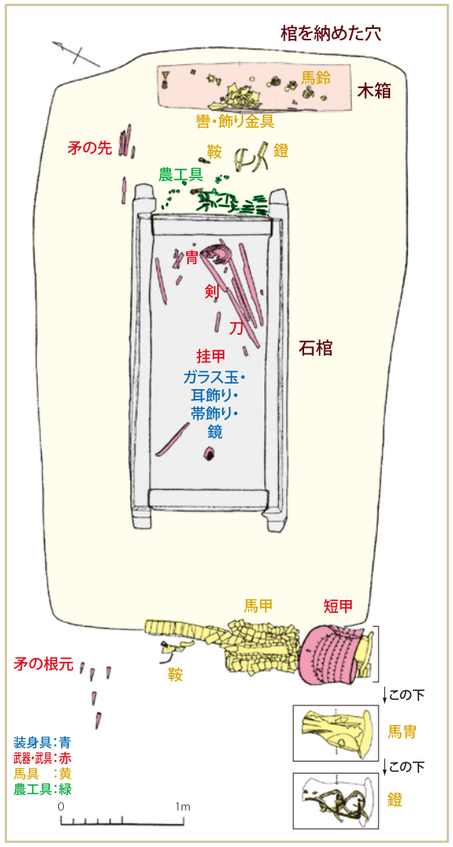
円筒埴輪

古墳の北東の端には、円筒埴輪を並べ立てていました。また古墳のくびれ部分からも埴輪の破片が見つかっています。

石棺

石棺が見つかった様子（南西から）

石棺は、九州の阿蘇産凝灰岩の組合式で、長さ2.9m、幅1.6mです。家の形で、孔のある突起が特徴的です。



墓に供えた品物が見つかった様子

（石棺の東の木箱）馬の轡と飾り金具

（石棺の東）左 馬具の鐙・右 鞍の金具・上 農工具

（石棺内）上 衝角付冑・剣・刀

（石棺の西）左 鞍の金具・中 馬甲・右 短甲・馬冑

墓に供えた品物が見つかった様子

棺を納めた穴の中からは、墓に供えた品物が見つかりました。棺の中は、後世の盗掘により荒らされていましたが、棺の周りの品物は、埋葬された当時のまま残っていました。

装身具と農具・工具

棺の中からは、身を飾るガラス玉、銀の耳飾り、龍の文様がある帯飾りなどが見つかりました。また20～30歳の人の歯が残っていました。棺の外には、鉄製の農具（鍬・鎌）や工具（手斧・鑿・鉋）のミニチュアや、滑石製の玉があり、埋葬の儀式で使用したようです。

上から　帯飾り・ガラス勾玉・ガラス玉・碧玉管玉

上から　鉋・鍬・鑿・鎌・手斧

馬の飾り

棺の東には、木箱が置かれたようです。箱は腐朽してなくなりましたが、中の品物は残っていました。馬の口につける轡や、馬の体につける飾り金具がありました。飾り金具は、金銅（金メッキの青銅）製で、美しい唐草文様があります。このような豪華な飾りは、当時の日本では珍しいものでした。

上 鐙・中央 轡・中央右 馬鈴
下左 辻金具（革帯を留める金具）　下右 杏葉（革帯から垂れ下げる飾り）

馬の甲冑

棺の西で見つかった馬の甲冑は、高句麗古墳壁画などでその存在が知られていましたが、実物としては東アジア初の発見となりました。その後、韓国の福泉洞古墳群などで20例以上が発見され、中国東北部に源流がある騎兵装備が、朝鮮半島南部を経由して日本列島に持ち込まれたことが明らかになりました。

馬冑・馬甲の小札の一部

武器・武具

棺内には、衝角付冑（先端が尖ったかぶと）と挂甲（小札を連ねたよろい）、刀、剣、鏃、胡籙（矢を入れて腰に提げる矢筒）がありました。棺の西には、馬の甲冑とともに、短甲（帯金を鋲で留めた短いよろい）がありました。棺の北には、矛が置かれていました。多くの武器が見つかったことから、墓の主は武人のようです。

短甲（棺の西側出土）・衝角付冑（棺内出土）